

特集 10 ごみを考える

〜海洋ごみがもたらす影響とわたしたちにできること〜

世 界中で増え続けるプラスチックをはじめとする海洋ごみは、2050年にはその量が、魚の量より多くなるともわれています。正しく捨てられなかったごみは、私たちの大切な川や海などの自然を破壊していきます。かけがえない自然を保全し、次の世代へ引き継いでいくため、私たちの暮らしから新たな海洋ごみを発生させないようにしましょう。



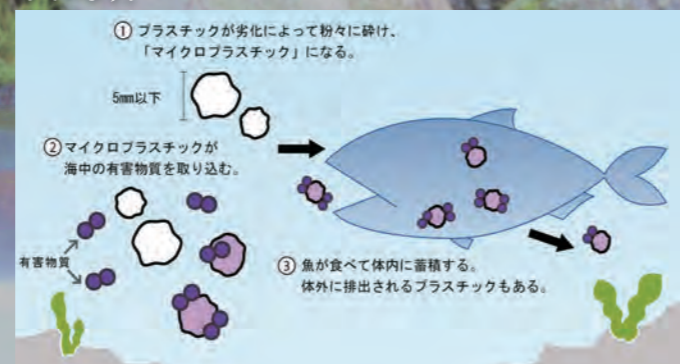
▲ごみの漂着した海岸

海へたどり着いたごみはどうなるの？

川から海へとたどり着くごみはさまざま、中でもレジ袋やペットボトルなどのプラスチックごみは、紫外線や波によって粉々に砕け、海に生息する生きものが食べることで、深刻な環境汚染を引き起こしています。

プラスチックごみの特徴

- ・プラスチックは、自然の中ではほとんど分解されない。
- ・マイクロプラスチックになると、回収も困難。
- ・マイクロプラスチックは海中の有害物質を取り込みやすいことが分かってきた。
- ・マイクロプラスチックを食べた魚の体内に有害物質が蓄積される可能性がある。



出典：平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務（環境省）

垂井町の取組み

ごみの減量化やリサイクルの推進、みなさんと協働で行なう清掃活動、不法投棄防止パトロールなど環境を守る取組を実施しています。清掃活動では昨年11月に「川と海のクリーン大作戦」を相川河川敷広場一帯、4箇所で開催し150人を超える参加者が集い、合計140kgのごみを回収しました。また、海洋ごみに関する啓発活動として、エコドーム環境フェアを開催しました。海洋ごみに関するパネル展示や廃材で作成した大きなくじらに来場者が持ち寄ったプラスチックごみを貼付けるなど、海とプラスチックごみの関係を学びました。さらに、令和4年3月に岐阜県が策定した「清流の国ぎふ 海洋ごみ対策地域計画」において相川河川敷広場が重点モデル区域に指定されたことを受け、各地区まちづくり協議会、公募委員、町内で環境保全に取り組む団体で構成する「垂井町海岸漂着物等対策懇談会」を立ち上げ、散乱ごみ対策について意見交換を行い、次のような意見が出されました。これらの意見を今後の取組に活用していきます。



▲エコドーム環境フェアの様子



▲垂井町海岸漂着物等対策懇談会の様子

垂井町海岸漂着物等対策懇談会で出された意見

- ・海洋ごみや対策の取組みについて広報などでPRを強化すべきではないでしょうか。
- ・県道沿いでごみ拾いをしました。ペットボトル、菓子の包装、電子たばこなど多くのごみが捨てられており、今後も地元で活動を周知してごみ拾いを継続していきたいです。
- ・自然を守る大切さを感じて欲しいので、小中学生たちと一緒にごみ拾いを実施していきたいです。
- ・海や生物など、環境について親子で参加し学べるイベントを開催して欲しいです。
- ・草が茂っている場所にポイ捨てごみが多いため道路沿いの除草回数を増やしてはどうでしょうか。

私たちにできること

- ごみのポイ捨ては絶対にやめましょう。
- マイバッグやマイボトルを持参しましょう。
- 使い捨てプラスチック製品(ストローやスプーンなど)の使用を控えましょう。
- バーベキュー、花火などレジャーを楽しんだ後は、ごみを持ち帰りましょう。
- 地域での清掃活動などへ積極的に参加しましょう。
- 自宅や学校、勤務先などの身近な場所は、日常的に清掃しましょう。

海へと繋がる相川から新たな海ごみを発生させないよう、一人ひとりが身近なことから取り組みましょう。



問 住民課 環境衛生係 ☎22-7510

まちから出たごみの行き先は？

岐阜県は内陸県ですが、道路や河川敷でポイ捨てされた散乱ごみは、いずれは川などを通じて海へとたどり着き、「海洋ごみ」となります。近年問題となっている海洋プラスチックごみの約8割は、本県をはじめとする内陸から出ており、海洋ごみ問題は私たちにとって他人事ではありません。



▲相川河川敷で回収したごみ(ペットボトルなどのプラスチックごみに加え、タイヤ、バーベキューコンロなども見られます)

内陸県で発生したごみ(自然物を除く)が海洋ごみになるまで



出典：「清流の国ぎふ 海洋ごみ対策地域計画」(岐阜県)